

特集

学生の実践力を育てるシミュレーション

なぜ看護教育にシミュレーションが必要か 小西美和子
 シナリオ作成と実施中の関わり・デブリーフィング 藤原史博
 急性期実習におけるシミュレーション教育 大川宣容
 こども看護領域におけるシミュレーション教育
 ——PBLに基づいたシミュレーション学習 永島美香

IDを活用したシミュレーション教育の取り組み 増山純二

【特別記事】

北海道内看護教員の継続教育における現状と課題(1) 片岡和江ほか
 フィンランドの現状から日本の看護基礎教育の改善点を考える 樋口明里ほか

【連載】

看護教育に協同学習法を取り入れる・2 緒方巧
 看護学校管理・運営のための12のポイント・2 江川万千代
 富山県の「専任教員キャリア形成プログラム」作成への取り組み・2 満間信江ほか
 国際学会へ行こう!・2 土師しのぶほか
 我らカルガモ! 育児学生日記・5 柴田明子
 看護はやっぱり面白い!? アラフォー女子大生の「看護」探求の日々・5 片山紀子
 実習の経験知 育ちの支援で師は育つ・21 新納美美
 Mail From USA ——『JNE』を読み、世界の看護教育の流れを知る・49 神谷英美子

編集後記

◎編集室ツイッター <http://twitter.com/KANGOKYOIKU>

●私が初めて弊誌を担当したのは、看護大学新設の流れが始めた頃で、当時はまだ「看護教育」イコール専門学校での教育でした。そして、そのとき知って驚いたのが、いわゆる「看護学校」の先生方の多くは、教員としての教育を受けていない、ということでした。もちろん実体験から、大学教員は教育を学んでいない(興味がない?)ことは知っていましたが、「学校の先生」がそうではないということが、ある意味衝撃だったのです。●しかし、弊誌の編集に携わるにつれ、専門学校の先生方の教育へのモチベーションが非常に高く、教育について学びたいと願う方が多いことに、また驚きました。そうであるならば、弊誌の役割はそのニーズに応えることと思い、今も企画を考えています。●授業設計は教育の基礎です。研修受講の有無に関わらず、日々見直していただければ願っています。…大野

●特集をきっかけに、大学時代の授業を思い返してみました。大多数は退屈で、卒業のためと割り切っていたのですが、なかには強く惹きつけられるものも。必修の語学をさぼって(履修できないのに)出席し続けた他学部ゼミもあれば、単位取得済みの講義(これも履修不可)に翌年再び参加することもありました。●そうまでしたい授業の共通点を考えてみると、浮かんできたのは教員への「尊敬」です。教授内容の知識に自信があるから、質問・反論にも余裕をもって真摯に向き合える。わからないときは率直にそれを認め、調べる方略を共に考えてくれる。●きっと「授業設計」を義務として果たすのではなく、道具としてうまく利用しながら、本当にやりたい教育を実現されていたでしょう。「半期の授業で私たちが導いた結論に反論せよ」。最終試験と対峙した日の高揚感が蘇りました。…加藤

看護教育 第54巻 第4号 2013年4月25日発行(毎月1回25日発行)

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2013, Printed in Japan

1部定価 1,470円(本体1,400円+税5%) 2013年・年間購読料(増大号を含む12冊)

冊子のみ 16,250円、冊子+電子版(個人) 19,250円、冊子+電子版(共有) 21,700円、電子版/個人 16,250円、

電子版/共有 18,800円(いずれも税込、送料弊社負担)

発行:株式会社医学書院 代表者:金原 優 〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23 販売部 TEL: 03-3817-5659

『看護教育』編集室 TEL: 03-3817-5776 メールアドレス: kankyou@igaku-shoin.co.jp 担当:加藤・大野・早田

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

本誌を無断で複製する行為(複写、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

JCOPY (社)出版者著作権管理機構委託出版物

本誌の無断複写は著作権法上の例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつと事前に、(社)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969、FAX 03-3513-6979、info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。0047-1895/13/¥250/論文/JCOPYが本誌の頁表記に並んで記されているのは、1論文1回複写につき250円を要することを明示したものです。表示のない論文などにも適用されます。JCOPY宛にご連絡いただく際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご提示くださるようお願いいたします。

Vol.54 No.3

2013年3月
特集

看護師国家試験 合格率 100%の秘密

看護学生が避けては通れない最後の関門、看護師国家試験。膨大な量の知識を学び、難しい技術を修得し、睡眠不足とたたかいながら実習をやりとげ、広く深い看護の心を育てたとしても、一発勝負の試験を突破することができなければ看護師になることはできません。「全員に合格してほしい」というのはすべての教員に共通の願いだと思います。入学当初から国試対策を意識し、出題範囲や形式に変更があれば即座に対応して指導されているという方も多くではないでしょうか。また、もちろん国試合格率は学校評価につながる大きなポイントであり、学生確保という観点でも大変重要な意味をもっています。受験者全体でみると例年 10% 程度の不合格者が出る看護師国家試験において、合格率 100% を続けている学校では一体どのような取り組みがなされているのでしょうか。本特集ではその秘密に迫ります。

■「100%合格への道」——日々の学びの積み重ねがその道を拓く
……………松下裕子・玉川緑

■学生のレディネスに合わせた国試対策
……………時苗奈都代・青柳悦子

■国試対策に焦点を当てた学校経営の課題
……………百瀬栄美子

■5年一貫看護教育——看護師国家試験合格への道のり
……………後藤実宝子

■合格率 100%の背景にあるもの——伝統が育む学習姿勢
……………大日向輝美



Vol.54 No.2

2013年2月
特集

基礎看護学を再構成する・2 看護の「基礎」を教えるとは？

看護を学ぶ者が最初に習うのが基礎看護学です。そこでは、「看護とは何か、看護師とはどのような職業か」を学ぶことになっていきます。多くの学生は、ここで初めて「看護」にふれることになります。今回の連続特集は、看護学生が最初に学ばなければならない「基礎」とは何かについて考え、それをふまえたうえで、実際に現場でどのように教えていけばいいのかを検討することにより、「基礎看護学」を充実させるきっかけとしていただくことを目的に組まれたものです。前号では、看護の「基礎」とは何かを再検討しました。しかし実際の教育現場では、「基礎」の再考も大事とはいえ、科目としての基礎看護学がある以上、それをどのように教えるかが、重要となります。そこで今回は、実際に何を重視して教えていけばいいのか、どう教えているのかについて、現場からの声を集めました。また、臨床現場から基礎看護学を振り返っていただきました。学問としての追求だけでなく、日々教育実践している立場からの「基礎看護学」の再考により、今後の取り組みの充実につながれば幸いです。

■「基礎看護学」において初めて看護に接する学生に伝えることは？——看護学原論の取り組み……………水戸優子・加納佳代子
■【座談会】領域別看護を経験したうえで、「基礎」看護教育を考える……………水戸優子・大石朋子・鹿倉みさ子・伊藤茂理・土澤り
■基礎看護学担当教員が「本当」にやらなければならないこと——看護技術教育の重視を！……………水澤晴代
■進学コースにおける「基礎看護」のとりえ方……………藤田京子
■初年時教育と基礎看護学『看護学入門』を通して考える……………上原佳子
■臨床現場から振り返る「基礎看護学」
コミュニケーション技術と環境調整に対する思いの変遷……………市川陽子
経験を経るに連れ立ち戻ることの増えた基本……………土谷由美



【2013年1月号 (Vol.54 No.1)】

基礎看護学を再構成する・1
看護の「基礎」とは何か？

【2012年10月号 (Vol.53 No.10)】

コミュニケーション力を育む
実習前に教員としてできること

【2012年12月号 (Vol.53 No.12)】

“特定能力”をもつ看護師の
新たな役割とその人材育成

【2012年9月号 (Vol.53 No.9)】

学問としての
在宅看護論の確立へ

【2012年11月号 (Vol.53 No.11)】

「複数受け持ち」実習を
より効果的に

【2012年8月号 (Vol.53 No.8)】

教務主任養成講習会での
学びを活かす

バックナンバーのご注文・在庫照会について

- 2011年2月号(Vol. 52, No.2)以前の号は、東亜ブック(TEL.03-3985-4701, FAX 03-3985-4703, <http://www.toabook.com/>)
- 2011年3月号(Vol. 52, No.3)以降の号は、医学書院販売部(TEL.03-3817-5659)をお願いします。

[illegible]

学生たちの瑞々しい感性と新鮮な視点でのエッセイと論文をお寄せください。

2013年4月5日(金)(消印有効)